

# 様式1 【英語・中3・「Unit3 Animals on the Red List」】①

## 【本時のねらい】

<It is …(for +(人など))+to>の文や<want+(人など)+to>を用いた文構造を活用する場面において、対話活動を通して得た情報を基に考えた英文を友達と共有することを通して、新出の文構造の理解を深める。

## ICT活用のポイント

- ①前時の学習内容の定着の様子を集約したものを大型提示装置に教師が提示し、本時の学習のめあてを全体で確認する。
- ②生徒は学習支援ソフトを活用して英作文を共有し、友達の英文と自身の英文を比較することで、自身の修正点や友達の英文の内容や表現のよさに気付く。

## 事例の概要

【つかむ】 前時の学習を振り返り、本時の課題をつかむ。(①)

【追究する】 友達の得意なことについて尋ね合う。

【追究する】 友達の得意なところを生かして頼みたいことを考え、それについて英文を書く。(②)

【まとめ】 学習内容を振り返る。

### 【事例におけるICT活用の場面①】

- ICT端末を用いて新出単語や新出表現等の確認テストを行い、前時の学習内容を振り返る。
- 各自の結果を集約し、クラス全体の結果（グラフ）を大型提示装置に提示し、本時の課題（めあて）を確認する。

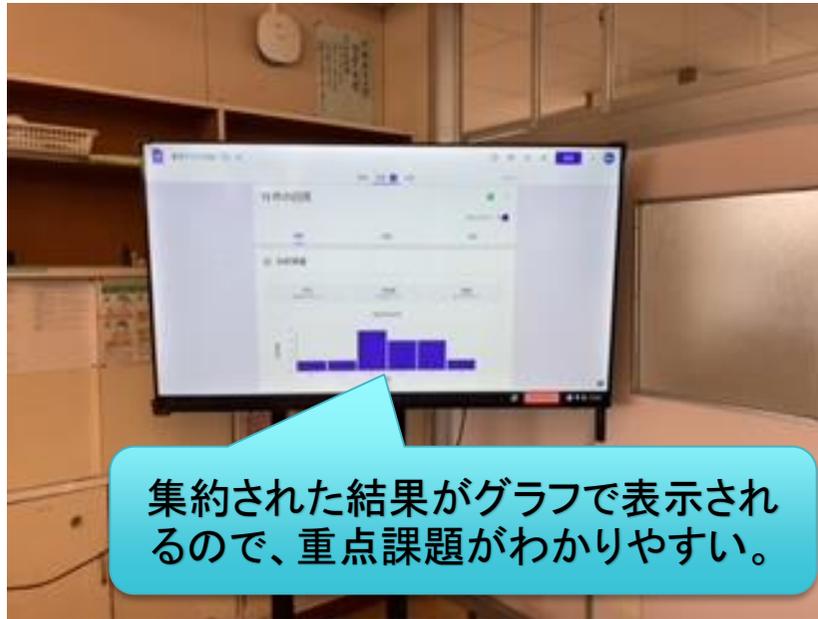
### 【事例におけるICT活用の場面②】

- インタビューの内容をもとに「友達に頼みたいこと」を英文でICT端末に入力する。
- 学習支援ソフトを用いて英文を共有し、お互いの英文を読んで表現の正確さや内容のよさについてマークを付けてリアクションする。

※単元計画の「まとめる」過程において、社会的な話題について理由や根拠を含めて自分の意見を書く活動を行った。

# 【英語・中3・「Unit3 Animals on the Red List」②】

## 【事例におけるICT活用場面①】



集約された結果がグラフで表示されるので、重点課題がわかりやすい。

## 前時の学習内容の定着の様子の集約、結果を提示し 本時の学習のめあてを全体で確認する

前時の学習内容の定着の様子(新出単語や新出表現等の確認テストの結果)を教師が大型提示装置に示して、全体で確認した。本時及び本単元で学習する表現について間違いやすいところや正確に理解していないところを確認し、「正確に英語くこと」を意識させることにつなげた。

全体で課題を共有したことで、生徒は本時の学習の必要性を感じ、その後の活動に取り組むことができた。

【活用したソフトや機能】アンケート

## 生徒が書いた英文を共有し、感想を伝え合う 教師は生徒の学習の成果を瞬時に把握し、評価する

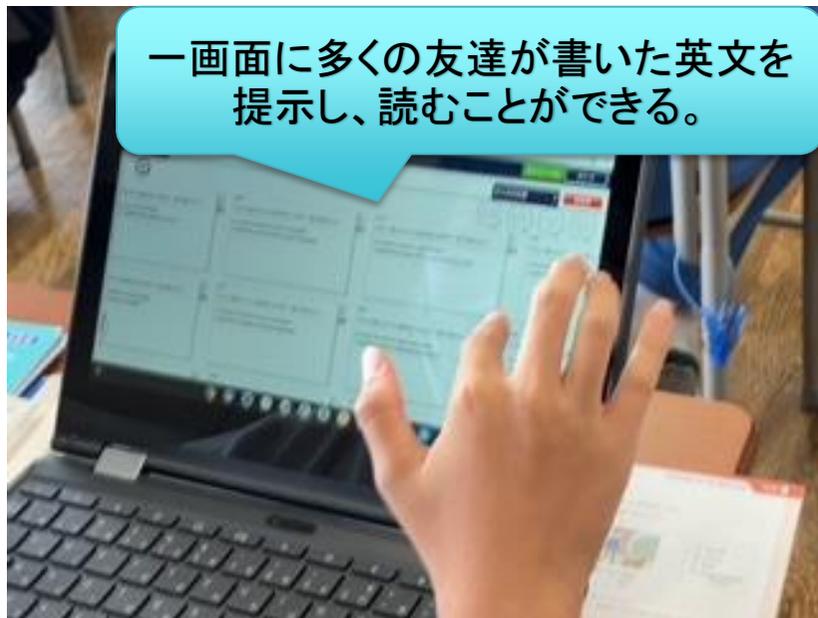
生徒が書いた英文を生徒同士で見合うことによって、友達の発想のよさや自分の考えとの違いに気付くことができた。読んだ反応や感想等をリアクションマークを使って、多くの友達に伝えることができた。

また、英文を互いに読み合う過程で、友達が使用している表現や英文の間違いに気付いたり、自分の間違いに自分で気付き、修正したりすることができた。

授業の終末に英文を提出させ、教師は生徒の本時の学習の成果を瞬時に把握し、評価に活用した。

【活用したソフトや機能】学習支援ソフト

## 【事例におけるICT活用場面②】



一画面に多くの友達が書いた英文を提示し、読むことができる。